

I 学校経営の構想

1 学校の沿革

本校は、平成4年4月、船川中学校と椿中学校との統合により、男鹿南中学校として誕生した。新校舎は斬新なデザインで、教室棟には学年集会が開けるオープンスペースを備えるなど豊かな学習環境を誇っていた。創立当時は14学級500名余りの生徒が学ぶ学校であった。翌年に体育館やグラウンド、野球場が完成し、教育環境が格段に充実した。平成13年には、男鹿中中学校と統合し、学区は男鹿中地区から門前地区に広がり、令和4年には、男鹿北中学校と統合となり、学区は半島北部地区も加わり、さらに広範囲となった。

今年度は、創立30周年を迎えることとなるが、生徒数は100名程度の規模にまで縮小している。しかし、地域の基幹校としての期待と誇りには根強いものがある。新しい時代に即した学校づくりが求められる。

2 学校経営の基本方針

- (1) 学習指導要領，県学校教育の指針，市学校教育の基本方針等の趣旨を踏まえるとともに，コミュニティ・スクールとして，地域の願いに応える人財育成に資する経営
- (2) 生徒の声を聞き，生徒を前面に出し，将来のよき社会人やリーダーとして社会に貢献するために必要となる世の中に通用する力を育む経営
- (3) 地域の基幹校としての誇りと自負をもち，チーム南中として職員総和による生徒・教師・地域がともに成長する学校づくり

3 学校教育目標等

【校訓】 「自 彊 不 息」(みずからつとめてやまず)

【教育目標】「夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 生徒の育成」

現代は、予測が困難であり絶えず変化している厳しい挑戦の時代と言われている。生きる力を身に付けた人財を育成するためには、学校のあらゆる教育活動を通して、生徒・教職員をはじめ学校にかかわる全ての人間が共通の目標の実現を目指すことが必要である。特に学校の主人公である生徒自身が目標を自分ごととして意識することが大切である。

校訓の「自彊不息」は、本校創立以来受け継がれている教えで、「自らを鍛えることを惜しまない精神を持ち続ける」願いを込め平成5年に定められた。

教育目標の「夢をもち」はキャリア教育の視点として求められている生徒が将来の夢や希望を目指して取り組もうとする態度の育成を意味している。また、「仲間とともに」は、そのために、変化や困難に積極的に向き合い、今を大切に生きる。そして自らの力で、あるいは他者との関わり合いの中で願いを実現する存在になっていくことを表している。「私たち」は自分の他、地域等、将来のそれぞれが活躍する場を含んでいる。学校は、生徒が主体となって進んでいく場であること、そのための力を育む場であることを常に意識したい。

また、男鹿の豊かな自然や観光、教育資源、ますます深刻になる地域課題も学習素材として含めながら、地域の恵みに感謝し、他と関わり、夢や目標の達成のための道筋を見通して変化に柔軟に対応し、自己実現する生徒の育成を目指したい。

4 目指す生徒像・教師像・学校像

(1) 生徒像

- ① よく学ぶ、活力のある生徒
- ② 相手の立場や考えを尊重し、他者と協働する思いやりのある生徒
- ③ 高い志に向かって手立てを工夫し、学び続ける生徒

(2) 教師像

- ① 生徒、保護者、地域、同僚を大切にするあたたかい教師
- ② 生徒に範を示し、信頼される教師
- ③ 専門職として学び続ける教師

(3) 学校像

- ① 安心して学び、生活ができる学校
- ② 生徒、教師、地域が集い、ともに成長できる開かれた学校
- ③ ふるさと男鹿のよさを知り、将来のふるさとの応援団を育む学校

【目指す三者の像及び三つの心がけの設定にあたって】

学校の姿として、生徒・教師・保護者も含めた地域、その総体としての学校が成長することを考えたい。そのため、生徒像だけではなく、教師像、学校像を設定した。

学校を、生徒・教師・地域がともに成長する場、学校そのものも成長するものととらえるとき、学校を「教育を施す場、授ける場」つまり、教師から生徒への一方的な教育の場という考えは成り立たなくなる。教師は、様々なルールや約束を決め生徒にそれを守ることを求める。集団がともに生活し成長するためには、互いに最低限の約束が必要である。

そのため、生徒、教師それぞれに「三つの心がけ」を設定し、これを意識していきたい。

生徒一人一人の人格が尊重され、大人と子どもの関係においても一人の人間として生活する学校でありたい。なぜなら生徒にとって学校は社会そのものだからである。望ましい環境で生活すれば、生徒同士の中で、いじめや差別等、他を否定する考えや行いはなくなるものと考ええる。また、一人の人間として認められることで、責任ある行動や考え、自立心が育まれると考える。結果、喜んで集う、居場所のある心地よい場となってゆくと考える。

5 目指す姿に向かうための生徒と教師三つの心がけ

生徒	教師
○あいさつ・マナー	○尊重・傾聴（一人一人しっかり話を聞く）
○いじめ・差別・仲間はずれの絶無	○公平・公正（えこひいきや差別をしない）
○一生懸命に学ぶ	○楽しく教える（一番の頑張りどころ）

【教師の三つの心がけについて】

① 尊重・傾聴

生徒を大人と同じ一人の人格として認めたい。表された生徒のことばの内にある心情まで理解したい。頭から否定せず、話をよく聞く姿勢を常に示したい。「怒鳴る」や心を傷つけることば、さらには暴言は体罰であり、教師によるいじめ＝虐待そのものであり、チーム南中はもとより社会的にも絶対に許されないことと戒めたい。

② 公平・公正

えこひいき，男女により態度が違うなど生徒は敏感に感じ取るものである。誰にでも公平な教師でありたい。もちろんそれは，個に応じた対応とは異なる。一人一人の事情を理解し，あたたかい対応をするのが南中教師のモットー。生徒に求める時間や服装等のルール・マナーは自ら範を示したい。「約束を守る教師」を大人の手本として示したい。

③ 楽しく教える

「中身の無い楽しさ」を生徒は決してよしとしない。生徒は勉強ができるようになりたいと強く思っている。生徒が毎時間の学習を「自分ごと」ととらえ関心をもち知的好奇心をくすぐる授業づくりに努めたい。「覚えなければならぬ」ことを「退屈だけれどもしなければならぬこと」とするか「自分の課題解決のために是非身に付けたいこと」とするかは教師の腕の見せどころ。生徒の眼を見て，関心・意欲や理解の程度を見取りながら「楽しい」授業を実現したい。

5 経営の重点

(1) 確かな学力の育成

① 学びを通して楽しさを実感する授業の構築

- ・男鹿南中授業スタンダードの共通実践を通じた授業改善
- ・学習の定着状況や関心・意欲等の実態を踏まえた授業づくり
- ・「自分ごと」としての学びを展開することによる未知の問題・新たな課題の解決に結び付く学びの創造

② 情意面（見えない学力）を育てる工夫

- ・生徒のキャリア発達につながる授業実践
- ・生徒指導の三機能を生かした授業実践や諸活動の工夫

③ 基礎的・基本的な技能・知識の定着

- ・ベーシックタイムの有効活用とベーシックテストの実施
- ・生徒の学習に対する望ましい意識付け，動機付けを図る手立ての工夫
- ・生徒が主体的に取り組む朝学習，家庭学習の工夫

(2) 豊かな人間性の育成

① 道徳の時間，体験活動の充実を図る心に響く道徳教育の推進

- ・全職員で意識を共有しながら取り組む道徳教育
- ・道徳科の授業づくりにおける実践と資料の蓄積
- ・学校行事や学級活動，生徒会活動等を通じた道徳性の涵養

② 地域と連携した心を育てるふるさと教育の推進

- ・地域で学ぶ，地域から学ぶ，地域人材・教育資源の活用
- ・ボランティア活動等の体験活動の推進
- ・CS，PTAと連携した諸活動の推進

③ 生徒の主体性を尊重した生徒会活動等の充実

- ・生徒の自己教育力を育む生徒会活動や縦割りによる諸活動の工夫

(3) 生徒指導の充実

① 自己肯定感，自己有用感を高める意図的・計画的実践

- ・一人一人の生徒が活躍する場や他者から認められる場の意図的設定

② 生徒指導の機能を生かした自己効力感の育成

- ・生徒指導の三つの機能を生かした教育活動の推進

③ 家庭や地域，関係機関との連携・協働の推進

- ・生徒の望ましい生活習慣の確立につながる家庭との連携
- ・生徒の健康課題等の改善につながる関係機関と連携した取組

(4) 教職員の専門性の向上

①全教職員による共同実践事項を意識した授業改善

- ・全教職員による研究推進の方向性と内容の共通理解
- ・共通実践事項「男鹿南中授業スタンダード」を意識した授業実践

②教育関係機関や学校間と連携した研修の充実

- ・生徒の成長や諸問題の解決につながる関係機関と連携した研修の充実

③ICTの効果的活用等を見据えた校内研修の充実

- ・ICTを効果的に活用した実践例や授業改善等について
- ・生徒に習得させたいICT機器の基本的操作、教師の操作スキルの向上について

7 学校教育を支える土台として

(1) コミュニティ・スクールの仕組みを反映させる学校経営

男鹿市では、平成28年度から市内全小・中学校でコミュニティ・スクール（CS）を採用し、地域と一体化したCSの推進により、学校の活性化を図ろうとしてきた。本校におけるこれまでのCSの取組を踏まえながら、CSを通して学校をひらき、生徒が地域と関わる窓口として活用し、生徒の社会的自立を図るための資質・能力の向上に結び付けるとともに、教育目標の具現化につなげていきたい。

(2) 一人一人のニーズに応えるユニバーサルデザインの生きる学校

特別な支援を要する生徒も、必要としない生徒も互いに尊重されるべき個としてともに生きる。その基本になるのは「相手意識」であり、それは様々なことがらを「自分ごと」としてとらえる感性であり想像力であり生き方である。

一人一人がかけがえのない存在である学校において、誰にでも優しい、心地よく生活できる環境を整えることは特別のことではない。当たり前になりやすい、安心して活動できる場の創造のために基本となる考え方として、ユニバーサルデザインの考え方や手法を学び、教育実践に生かしていきたい。

(3) 地域に根ざした南中キャリア教育

地域の人材や教育資源の活用等、地域に根ざした学習活動を通して、郷土愛を育むとともに、将来の生き方・在り方に向かうキャリア教育の充実を図りたい。また、学習活動においては、ねらいや目的を明確にし、発達段階に応じた多様な体験活動となるよう工夫していきたい。NS-NET発表会は、「自分ごと」として研究した成果を「相手意識」をもって発表する絶好の機会と捉え、指導と支援に努めたい。